

- 11) 山越言 (1994): ボッソウの野生チンパンジー集団の社会関係. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 156.

社会構造分野

加納隆至・大澤秀行・鈴木 晃

研究概要

- A) 中央アフリカザイル森林における野生ボノボの社会及び行動の研究

加納隆至・橋本千絵¹⁾

ザイル共和国ジョル地区ルオ学術保護区ワンバ森林においてボノボ (ピグミーチンパンジー) の研究を行っている。ザイルの政情は不安定で現地調査は中断中であるが、研究結果のとりまとめは進行中である。

- B) 東アフリカタンザニアにおける野生チンパンジーの研究: 科学研究費補助金

(国際学術研究06041064)

加納隆至・小川秀司²⁾

タンザニア西部の乾燥地帯で野生チンパンジーのジェネラルサーベイを行った。小川は1994年7-10月の乾季終末から雨季開始時にかけて、ウガラ丘陵地帯でチンパンジーの密度と植生に関する調査を行い、加納は、1995年の1-3月の雨季の盛期に、リランシンバ丘陵の孤立生息域で、密度と植生に関する調査を行った。

- C) 性淘汰、社会構造に対する要因としての霊長類メスの繁殖戦略

大澤秀行・光永総子²⁾

霊長類における性淘汰、及び社会構造に影響を及ぼすメスの性行動を研究している。メスの生殖生理学的な解析が重要であるため、生理学研究と共同して、これまで放飼場やグループケージ飼育ニホンザルについて調べてきた。

- D) アフリカ乾燥サバンナにおけるオナガザルの野外研究

大澤秀行

カメルーン北部のカラマルエ国立公園において、パタスザルとミドリザルの野外研究を1984年より続けている。繁殖期に社会変動と繁殖行動の関係について資料を収集している。1994年度は出産期に、パタスモンキーの群れ雄の地位をめぐる争いに関する資料を収集した。

- E) オランウータンの野外研究

鈴木 晃

インドネシア・東カリマンタン州、クタイ国立公園におけるオランウータンの生態学的研究の継続、1994年8月には、現地での観察小屋が完成し、8月13日には、小屋開きを、現地関係者約60名の参加の下に行われた。

- F) 上信越ニホンザル地域社会学的研究の継続

鈴木 晃

上記の課題の継続的調査と、上信越ニホンザル研究林の研究小屋の整備を行った。

- G) マカク類の比較社会学的生態学的研究

加納隆至・大澤秀行・松村秀一¹⁾

揚妻直樹¹⁾・小川秀司²⁾・田中 香¹⁾

マカク類の社会進化を明らかにするため、ニホンザル (屋久島・高崎山・嵐山・金華山) および、アジアに生息する他のマカク類 (中国のチベットマカク・インドネシアのスラウェシマカク) の社会をその生息地で研究している。

- H) タイ国南部の熱帯多雨林と同地域に生息する霊長類に対する保護に関する基礎研究

大沢秀行

1995年1月、タイ国内の数ヶ所の国立公園を対象に生態密度、環境学の予察を行った。

- I) その他の哺乳類の社会行動研究

加納隆至・大澤秀行・瀬戸口美恵子²⁾・

小林 隆¹⁾・柳原芳美²⁾

タイワリス・半野生馬・アライグマについて、社会行動の調査を行い、霊長類とは異なる視点からも動物社会学的研究を行っている。

総 説

一和文一

- 1) 鈴木晃 (1995): 共食いをするチンパンジー、チンパンジー (pp.96-101). 立風書房.
- 2) 鈴木晃 (1995): やはり社会構造があった、忘れられた類人猿, 上. 科学朝日. 55 (5): 41-44.

論 文

一英文一

- 1) Hashimoto, C., & Furuichi, T. (1994): Social role and development of

1) 大学院生 2) 研修員 3) 研究生

noncopulatory sexual behavior of wild bonobos. In R. W. Wrangham, W. C. McGrew, F. B. M. de Waal, & P. G. Heltne (Eds.), *Chimpanzee Clutres* (pp.155-168). Cambridge: Harvard University Press.

- 2) Hill, D. A., Agetsuma, N & Suzuki, S. (1994): Preliminary survey of group density of *Macaca fuscata yakui* in relation to logging history at seven sites in Yakushima Japan. *Primate Research*, 10: 85-93.
- 3) Idani, G., Kuroda, S., Kano, T., & Asato, R.(1994): Flora and vegetation of Wamba forest, central Zaire, with reference to bonobo (*Pan paniscus*) foods. *Tropics*, 3(3/4): 309-332.
- 4) Matsumura S., & Watanabe K. (1994): Sexual behavior and female reproductive cycles in a wild group of moor macaques (*Macaca maurus*). In J.J. Roeder, B. Thierry, J. R. Anderson, & N. Herrenschildt (Eds.), *Current Primatology*, Vol. 2, Social development, learning and behavior (pp.33-38). Strasbourg: Universite Louis Pasteur.
- 5) Ogawa, H. (1995): Recognition of social relationships in bridging behavior among Tibetan macaques (*Macaca thibetana*). *Am. J. Primatol.*, 35: 305-310.
- 6) Suzuki, A. (1994): Food Adaptations of Orangutans after the Big Forest Fires in East Kalimantan, Indonesia. *Proc. of Int. N. Conf. of Orangutans*. (pp.49-56).

—和文—

- 1) 揚妻直樹・杉浦秀樹・田中俊明 (1994): 屋久島の世界遺産地域を通過する西部林道が自然環境に与える影響. *霊長類研究*, 10: 41-47.
- 2) 揚妻直樹・和田一雄・李保国 (1994): 中国秦嶺山脈の野生ゴールデンモンキー (*Rhinopithecus roxellanae roxellanae*). *霊長類研究*, 10: 49-56.
- 3) 加納隆至 (1994): ボノボのオスの順位と交尾頻度. *霊長類研究*, 10: 215-228.

- 4) 小林隆・加世田雄時朗 (1995): 発情メス, 非発情メス, 妊娠後期メスの尿に対するオスの反応の違い. *馬の科学*, 32: 17-22.
- 5) 橋本千絵 (1994): 野生ボノボの性器接触行動の発達について. *霊長類研究*, 10: 261-267.
- 6) 鈴木晃 (1994): 東カリマンタン・クタイ国立公園におけるオランウータンの社会・生態学的研究. *霊長類研究*, 10: 377-390.
- 7) 柳原芳美・松林清明・松沢哲郎 (1994): ニホンザルにおける飼育環境のエンリッチメント: 給餌方法とケージ環境の検討. *霊長類研究*, 10: 95-104.

報告・その他

—英文—

- 1) Ingmanson, E. J., & Kano, T. (1993): Waging Peace. *International Wildlife*, 23(6): 30-37.
- 2) Kano, T., & Asato, R. (1994): A result of the extensive survey on the distribution and density of chimpanzees and gorillas in the Motaba river area, northeastern Congo, December, 1992 to January, 1993. In: *Overseas Research Report of Studies on Bonobos and Chimpanzees. 1990-1992 Grant-In-Aid for Scientific Research Reports for Overseas Scientific Survey* (pp.27-45).

—和文—

- 1) 加納隆至・伊谷原一・橋本千絵 (1994): ワンバのボノボの現状と保護. *霊長類研究*, 10: 191-214.
- 2) 松村秀一 (1994): 酒を飲むサル. *モンキー*, 255: 25.
- 3) 鈴木晃 (1994): 東カリマンタンのオランウータンの分布と保護の現状. *霊長類研究*, 10: 363-376.

学会発表

—英文—

- 1) Hill, D. A., & Agetsuma, N. (1994): Preliminary survey of Yakushima macaques (*Macaca fuscata yakui*) in relation

- to logging history at seven sites. 15th Congr.Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.132.
- 2) Matsumura, S. (1994): Ecology of moor macaques: Examination of the factors which influence "Egalitarian" relationships among females. 15th Congr.Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.300.
 - 3) Matsumura, S. (1994): Agonistic interactions and post-conflict contacts among wild moor macaques (*Macaca maurus*). 15th Congr.Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.400.
 - 4) Suzuki, A. (1994): Ecology of Orang-utans in Kutai National Park. 15th Congr.Intl. Primatol. Soc. (Bali, Indonesia, Aug., 1994). Handbook & Abstracts: p.335.
 - 5) Soltis, J., Mitsunaga, F., Shimizu, K., & Nozaki, M. (1994): Female choice in captive Japanese macaques (*Macaca fuscata*). The 10th annual meeting of Primatological Society of Japan (Tokyo, June, 1994). Primate Research, 10: 124.
 - 6) Soltis, J., Mitsunaga, F., Shimizu, K., & Nozaki, M. (1994): Female choice in captive Japanese macaques (*Macaca fuscata*). The 17th annual meeting of the American Society of Primatologists (Seattle, July, 1994). Am. J. Primatol., 33: 241.
- 和文—
- 1) 揚妻直樹 (1994): ヤクシマザルの活動時間配分と食物品目の関係. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 151.
 - 2) 揚妻直樹 (1994): ニホンザルの休息場所選択. 第13回日本動物行動学会 (1994年12月, 柏原, 大阪). 発表要旨集: p.44.
 - 3) 小林隆 (1994): オスウマのメスの排泄物に対する反応とメスの性周期. 第13回日本動物行動学会 (1994年12月, 柏原, 大阪). 発表要旨集: p.50.
 - 4) 小嶋祥三・揚妻直樹・岡本暁子 (1994): 飼育下チンパンジーの出会い場面における音声. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 156.
 - 5) 松村秀一 (1994): スラウェシのムーアモンキー. 第103回中部人類学談話会 (1994年7月, 名古屋, 愛知).
 - 6) 松村秀一 (1994): 「血縁びいき」しない? —ムーアモンキーの社会交渉—. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 154.
 - 7) 光永総子・Soltis, J.・清水慶子 (1994): ニホンザルにおける授乳停止と発情回帰. 第10回日本霊長類学会 (1994年, 6月, 東京). 霊長類研究, 10: 158.
 - 8) 岡本暁子・小嶋祥三・揚妻直樹 (1994): 飼育下チンパンジーの出会い場面における社会的交渉. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 155.
 - 9) 岡本暁子・小嶋祥三・揚妻直樹 (1994): チンパンジーの放飼集団における挨拶行動. 日本動物行動学会第13回大会 (1994年12月, 柏原, 大阪). 発表要旨集: p.41.
 - 10) 小川秀司 (1994): マカク属におけるブリッジング行動. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 125.
 - 11) 清水慶子・光永総子・Soltis, J., ・野崎眞澄 (1994): 黄体ホルモンによるマカカ属サルの排卵抑制効果. 第10回日本霊長類学会 (1994年, 6月, 東京). 霊長類研究, 10: 139.
 - 12) 鈴木晃 (1994): オランウータンの社会構造について. 第48回日本人類学会、日本民族学会連合大会 (1994年10月, 鹿児島). Anthropological Science., 103: 160.
 - 13) 鈴木滋・Hill, D. A.・古市剛史・揚妻直樹・Sprague, D. S. (1994): 屋久島、ニホンザルオスの移籍と生活史. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 127.
 - 14) 田代靖子 (1994): 嵐山E群におけるニホンザル老体メスの社会交渉. 第10回日本霊長類学会大会 (1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 125.
 - 15) 柳原芳美 (1995): エンリッチメント: 飼育システム改善の試み. 第39回プリマーテス研

研究会(1995年1月, 犬山, 愛知). 講演要旨集, p.8.

- 16) 柳原芳美・松林清明・松沢哲郎(1994): ニホンザルにおける飼育環境のエンリッチメント: 給餌方法とケージ環境の検討. 第10回日本霊長類学会大会(1994年6月, 東京). 霊長類研究, 10: 161.
- 17) 柳原芳美・大沢秀行(1994): ニホンザルにおける劣位オスの交尾戦略. 日本動物行動学会第13回大会(1994年12月, 柏原, 大阪). 発表要旨集: p.43.
- 18) 柳原芳美・大沢秀行・清水慶子・後藤俊二(1994): 愛知県犬山市における野生化アライグマの生態: 予報. 日本哺乳類学会1994年度大会(1994年9月, 府中, 東京). 講演要旨集: p.75.

行動神経研究部門

思考言語分野

松沢哲郎・藤田和生・友永雅己

研究概要

A) チンパンジーの認知・言語機能の比較認知科学的研究

松沢哲郎・友永雅己・田中正之¹⁾

佐藤明¹⁾・日上耕司²⁾

チンパンジーとヒトを対象に、認知・言語機能の比較研究をおこなった。色名文字や数の体系とその記憶、放飼場での社会的知能の研究などをおこなった。

B) 野生チンパンジーの道具使用と文化的変異

松沢哲郎

西アフリカのギニア・ボソウとコートジボワール・ニンバの野生チンパンジーを対象に、道具使用に見られる認知発達を研究し、文化的伝播の実体と機構について調査した。

C) 霊長類の錯視知覚に関する比較心理学的研究

藤田和生

アカゲザルとチンパンジーを対象に、ボンゾ錯視の知覚の分析をおこない、ヒトやハトと比較した。

D) スラウェシマカクの種の認知

藤田和生・渡辺邦夫³⁾

インドネシア・スラウェシ島北部において、2種のスラウェシマカクを対象に、近縁の種の写真に対する視覚的な好みを調べた。

E) チンパンジーにおけるヒトの顔の認知

友永雅己

チンパンジーに対し、ヒトのキメラ顔写真などを用いた見本合わせ課題を訓練し、相貌認知における倒立効果や視野差などについて検討した。

F) チンパンジーにおけるプライミング効果の検討

友永雅己

2試行が連続して出現する同時弁別課題において、正刺激、正答位置の二試行間での推移の確率を操作することによって、系列プライミング効果を検討した。また、同種の単純弁別課題において、正刺激と負刺激の空間的關係の変化を操作することによって負のプライミング効果と復帰抑制について検討を行い、負のプライミング効果を検出した。

G) チンパンジーにおける初期知覚の比較知覚論的研究

友永雅己

チンパンジーとヒトの初期知覚の特性を比較知覚論的立場から検討することを目的として、テクスチャ弁別の非対称性、見本合わせ課題を利用した錯誤結合の検討、そして、視覚探索およびテクスチャ弁別課題を用いた陰影による形の知覚などを調べた。チンパンジーでは、ヒトとは異なり、縦方向の陰影よりも横方向の陰影がついた図形間の弁別の方が容易であった。

H) 霊長類における社会的相互作用の実験的分析

日上耕司

昨年度に続き、飼育チンパンジー集団を対象に、共同作業、競合-協同場面などにおける社会的相互作用の実験的分析をおこなった。

総説

一和文一

- 1) 藤田和生(1994): 学習するチンパンジー. 科学技術ジャーナル, 3(5): 12-13.
- 2) 藤田和生(1994): マカカ属の種間で見られる同種への好み. 遺伝, 48(4): 35-41.

1) 大学院生 2) 研修員

3) ニホンザル野外観察施設助手